

障がい者が働く場をもっと

9月12日、えんど久子県議予定候補は、県議会一般質問を傍聴しました。

県議会で1議席しかない日本共産党は、年1回しか一般質問ができません。日本共産党は質問の機会を増やすことを求めてきました。

障がい者の雇用を奪った

多くの省庁で明らかになった障がい者雇用水増し問題。大分県教育委員会でも、国のガイドラインに反して県内の教職員66人を障がい者数に含めていたことは、許せません。

障がい者の雇用を奪っていることをどう考えるのか。5年以上前は水増しがなかったのか。今後法定雇用率を達成するための方策はどうするのか。などについて、堤栄三県議が質しました。

方策は持たないと教育長

工藤教育長は「ただちに法定雇用率を達成する方策は持ち合わせていない。事務系は民間委託がすすみ雇用創出が難しい。障がい者採用枠の受験者が少ない。受験者数の拡大に向け、他県の取り組みを参考にしながら今後努力したい。5年以上前については確認できない」と答弁。知事は「手帳で確認する国基準でいいのか」と答弁。教育委員会以外ではこのような不正はないとのこと。



県議会で一般質問に立つ大分市選出の堤栄三県議会議員。

2018. 9. 12.

条例を持つ大分県として

職員の手帳の確認が云々という問題ではなく、新たな障がい者雇用を増やし、共に生きる大分県の実現に県が率先して取り組む姿勢がないことが、「障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分づくり条例」を持つ大分県として大変問題だと思えます。しかも、県教委は支援学校を持っている部署です。学校現場で障がい者が働くことは、障がいを持つ親子の希望になり、障がい者への理解をひろげ、共に

生きる大分県づくりに向け、とても意義があることではないでしょうか。条例の実践に力をあわせていきましょう。

日本共産党 堤栄三県議 県議会で質問
10月～12月に日出生台で？

日米共同訓練はやめよ

駅の無人化は困る

堤栄三県議は、9月12日県議会一般質問でJRの問題も質問。すでに1駅が無人化され、大幅に減便が行われました。

障がいのある人からは「駅員さんがいなくなると安心して乗れなくなる」「予約をしないと乗れないのは差別だ」などの声が上がっています。駅無人化に反対する署名が7万筆以上集まったことを紹介し、無人化反対の立場で堤県議が質問。

広瀬知事は「鉄道の維持と安全性確保のために慎重な対応と丁寧な説明を求めてきたし、求めていく」と答弁しました。

大分県も地元も反対

今年10月～12月に九州のどこかでオスプレイも参加し行われることが決まっている日米共同訓練。日出生台での日米共同演習が行われる可能性があります。

この共同訓練の中止を求め県議会で堤栄三県議が質問しました。「大分県と地元自治体が米海兵隊との実動訓練は行わないよう要請していることが防衛大臣や米軍まで伝わっているのか」との質問に、「防衛省を通じて米軍に伝えていると回答があった」と答弁しました。

広瀬知事は「1年前のオスプレイの大分空港への緊急着陸の原因はわかっていない」「これ以上の負担は受け入れられない。縮小廃止を粘り強く求めていきたい」と述べました。



堤県議一人で奮闘

共産党議員として、県議会でたったひとりで多くの項目を取り上げてがんばる堤栄三県議。

これらの他にも、メガソーラーや少人数学級、小中学校のエアコン設置、住宅リフォーム助成制度、子どもの医療費助成制度などなど、について質問しました。

来年から県議会で一緒にがんばるように、えんど久子は全力を上げます。

6月に福岡市の九州防衛局に行き、日米共同訓練はやめよ、オスプレイを飛ばすな、と訴える真島省三前衆議院議員、えんど久子県議予定候補、山下かいなど。

2018. 6. 14.